

いまもあしたも誇れる座間であるために…

発行者：おぎはら健司  
メールアドレス：info@ogiharakenji.com  
連絡先：042-719-4972 (ファックスも同じ)

# おぎはら健司の市政レポート

## 平成29年度予算の概略

2月23日に開会した「平成29年第一回定例会」において、平成28年度補正予算(案)に加え、平成29年度予算(案)についても明らかにされました。ここ数年は過去最高規模を更新してきた、座間市の一般会計予算ですが、新年度は若干の減額となっています。

その要因は、経済状況が不安定のため企業が納める法人市民税収の見込み額が今年度に比べて5億1,974万円(35.1%)と大きく減少していることや、今年度は臨時福祉給付金の予算計上がないことなどによるものと思われるが、その予算額は前年度比1億4,573万円余(0.4%)減の412億6,876万2千円となっています。

一方、国民健康保険事業や介護保険事業などの特別会計、上下水道企業会計などを含めた予算総額は749億5,671万円と前年度と比較して2億1,293万円余、0.3%の増額となっており、その要因は、国民健康保険、介護保険事業と後期高齢者医療保険事業の三つの特別会計のうち、国保を除いた二つの特別会計合わせて6億8千万円ほどの増額が計上されているからです。

介護保険事業では、保険給付費が4億5千万円ほど増額されており、後期高齢者医療保険事業では加入者増による増額となっています。

## 第四次座間市総合計画実現への取り組み

市税収入が減少していることに加え、国庫支出金や県支出金などによる歳入が減少していることを補填する財源として、各年度ごとに予算の不要額(剰余金等)を基金として積み立て、それぞれの年度間の調整機能を持つ財政調整基金(財調)が活用されておりますが、ここ数年の着実かつ堅実な市政運営により、財調の残高が年度当初見込みとして10億円ほど確保できていたことで対応がなされています。

新年度予算では、市の方針・指針を示す「第四次座間市総合計画」に網羅された事業を着実に実施するため、これまで積み立てられた基金の活用により、財源に穴を開ける事なく着実な市政進捗が図られているものと受け止めておりますが、詳細は今後の常任委員会などで議論を深めたいと考えております。

主だった事業を取り上げると、キャンプ座間返還跡地に建設が進められている「新消防庁舎」の予算が15億1千万余、市道38号線拡幅や小松原交差点改良等を含む南東部地区総合交通対策事業費が4億7千万円余、相武台前駅南口歩道整備などの用地費を含む北部地区総合交通対策事業費が3億7千万円余、小田急相模原駅前市街地再開発事業が3億4千万円余など、これまで先送りされてきたインフラ整備事業を積極的に推進する狙いが読み取れます。

また、子育て政策としては、新年度と翌年度で保育所整備(定員数を約300名増員)を進めることで、待機児童解消も積極的に取り組むと同時に、私もかねてから主張しておりました児童ホーム(学童保育)の小学校併設化の促進についても、ひばりが丘小学校区について実現への手続きが進む事となり、今後は他の小学校区でも積極的に推進を図る方向性が示されました。

公的証明書の取得利便性向上に向け、コンビニで発行できる証明書はこれまで住民票と印鑑証明に限られておりましたが、新規に戸籍謄本についても発行が出来るよう、準備が進められることとなりました。

懸念は、生活保護費が42億5千万円余と数年ぶりに前年度比増額され、一般会計に占める割合では10%を超えており、高齢者世帯や傷病世帯などを除く「その他世帯」と言われる、働けるけど働き先が見つからない世帯に対し引き続き就労支援に取り組んでいただければ、提言し続けたいと思います。